

2016.12

(公社)富山県薬剤師会
広報誌

とみや 薬

12号

第38巻

No.329



トコン *Cephaelis ipecacuanha* A. Rich. (アカネ科 *Rubiaceae*)

生薬 トコン（吐根）3年生以上の株の根を掘り取り、陽乾する。

成分 アルカロイド：emetine, cephaeline, psychotrine, O-methylpsychotrine, ipecamine, hydroipecamine, emetamine, protoemetine 等。

効能 emetine 製造原料。催吐剤。アメーバ赤痢の治療薬。鎮咳・去痰薬に配合される。劇薬なので一般では使用しない。



生薬 トコン

元富山県薬事研究所
薬用植物指導センター

村上守一氏 写真撮影

〇〇表紙について〇〇



ブラジルの南緯 8 - 22°、ボリビアと国境を接する中西部、特にマットグロッソ州の高温多湿な森林帯に多く自生、または栽培される草本性の常緑小低木で、木質の匍匐茎を出し生長します。根は一部が肥厚して数珠状を呈し太さ 5 mm、茎は 4 稜で直立し 10~40cm、輪状節があります。葉は対生、倒卵状楕円形ないしは楕円形で短柄があり、全縁で少しは波曲します。頂端の葉腋から花柄を出し、10~12花を頭状に付けます。花は小形で白色合弁、先端が 5 裂し、果実は楕円形で約 1 cm、紅色、後に黒熟します。

ブラジルはポルトガルの植民地であったところから、1570-1600年にポルトガルからブラジルに派遣された宣教師によって、先住民の間で古くから疫病の薬として用いられてきた薬草としてヨーロッパに紹介されました。アマゾン流域の住民トゥピ族やブラジル南部のグアラニ族が古くから催吐剤やアメーバー赤痢の治療に用い、部族の言葉でイペ・カー・グエーニ (ipe-kaã-guêne) と呼んでいた薬で、種小名の *ipecaquanha* の語源となりました。イペは小さい・平たい、カーは草・木・植物、グエーニは吐き気を起こさせる意味で、三語の合成語として低く地を這う、口に入れると吐き気を催す植物という意味だそうです。ヨーロッパに渡ったトコンが陽の目を見たのはフランスのルイ14世 (1638-1715) の王子らの赤痢をパリの医師が治療したことから始まりました。原植物が実際にリスボンにもたらされるのは1800年になってからのことです。1817年には主成分 emetine が単離され、アルカロイド成分研究の草分けとなりました。

需要が増したことから自生地のマットグロッソ州と気候風土が似ている地域、高温、湿潤、日陰で、腐植土壌、排水良好な土地を求めて栽培が試みられました。1866年にはインドに移植され、インドネシアやマレー半島に持ち込まれました。1885年にはマレー半島最南端のジョホールで栽培に成功し、ゴム園の除草として盛んに栽培され、ジョホールトコンとして輸出されています。

他に日本薬局方にはコロンビア原産、中南米で栽培される *C. acuminata* も規定され、カルタゲナトコン、ニカラグアトコン、パナマトコンの名で流通しています。カルタゲナトコンは草本性の常緑小低木であることはトコンと変わりませんが、種小名 *acuminata* はラテン語の *acuminé* (とがった先)、英語の *acuminare* (葉先が鋭尖形の) でトコンの楕円形の葉とは異なります。根もやや大きく、径 9 mm にもなり念珠状になりません。南アメリカには他に多くの同類生薬があります。同属の黒色トコン (*C. emetica*) の種小名 *emetica* はラテン語の *emeticus* (吐き気を起こさせる) で、成分名 emetine の語源となりましたが、現在流通はないようです。ブラジル原産の白トコンはスミレ科の *Ionidium ipicacuanha*、東インドトコンはオシロイバナ科の *Cryptocarpus sp iralis*、波状トコンはアカネ科の *Richardsonia scabra* などが吐剤として使われているようです。

日本には宇田川玄真 (1770-1835) が『東西医方名物考』(1825) で詳しく紹介しています。イロハ順に記載されているためイペカコアナ (乙百格安那) は一番最初に出てくる薬物です。産地ブラジル、ペルー、メキシコなどを示した後、生育地、植物の形態、生薬の性状を記し、真贋の見方を記しています。加えて「按に此草、和漢産未だ詳ならず。舶来の品を用うべし」と言っています。この当時どの程度用いられたかは明らかではありませんが、明治19年 (1886) に公布された日本薬局方の初版に収載されています。(村上守一 記)